

YCU PLAN 2012



公立大学法人 横浜市立大学
YOKOHAMA CITY UNIVERSITY

はじめに

● 予算規模(見込損益計算書)

(単位:百万円)

	平成24年度予算	平成23年度予算	増減+▲	(参考)平成17年度決算
収益の部	60,936	59,741	1,194	58,769
経常収益	60,936	59,742	1,194	51,340
運営交付金収益	10,131	9,816	315	13,031
授業料等収益	2,935	2,889	46	2,591
附属病院収益	43,654	42,733	921	32,274
その他収益	4,216	4,304	▲ 88	3,444
臨時利益	0	0	0	7,429
費用の部	61,136	59,741	1,395	54,880
経常費用	61,136	59,741	1,395	48,962
教育研究経費等	4,686	4,695	▲ 9	3,597
診療経費	23,273	22,923	350	19,664
人件費	28,893	28,014	879	24,608
その他費用	4,284	4,109	175	1,093
臨時損失	0	0	0	5,918
当期純損益	▲ 200	0	▲ 200	3,889
目的積立金取崩額	200	0	200	0
当期総損益	0	0	0	3,889

(詳細は各セグメント見込損益計算書参照)

平成24年度予算は、附属2病院における医業収益増加に伴い、対前年比約12億円の増(+2.0% ※経常収益)となっております。なお、法人化初年度である平成17年度決算比では、約96億円増(+18.6% ※経常収益)となっており、法人化以降はじめて600億円を超える予算規模となっております。

● 予算の考え方

平成24年度は、第2期中期計画の2年目にあたり、第2期中期計画の実現はもとより、第1期中期計画で積み残した課題を着実に解決していく重要な年度となります。

教育の充実においては、国際総合科学部コース再編により、新たに国際都市学系を設置するとともに理学系の中に生命医科学コースを設置し、**カリキュラムを更に充実**します。また、大学を取り巻く環境の変化に対応するため、**学生のメンタルヘルス相談や低学年次のキャリア教育の充実**等をはじめとした学生支援に、より力を入れて取り組みます。**研究の推進**においては、平成24年12月に完成する先端医科学研究センター新研究棟を中心に、トランスレーショナル・リサーチ体制の確立を進め、**世界的研究拠点の構築**を目指します。

医療の充実においては、救急医療等、地域からのニーズの高い医療の提供をいっそう充実させるため、附属病院では、**救急病床20床の整備、手術室の効率的運用、血液浄化センターの拡充を行います。**また、センター病院では、不妊治療の充実を目指し、**生殖医療センターを開設**するほか、**新しい医療情報システムの運用を開始**し、地域医療の更なる充実、診療の効率化を目指します。

このように平成24年度は、教育・研究・医療のそれぞれの分野において、**法人の強みを活かした取組をさらに発展**させていくため、重点的に投資を行います。

また、東日本大震災の経験をふまえ、被災時においても、学生・患者・教職員の安全を確保できるよう、**防災・災害時対策**に積極的に取り組みます。非常用発電機のオーバーホール等、緊急実施が必要な取組を平成24年度までに完了する一方、引き続き金沢八景キャンパスの再整備を計画的に進めてまいります。

目 次

公立大学法人横浜市立大学 平成 24 年度計画概要図	1、2 頁
教育・研究に関する主な取組	3、4 頁
医療に関する主な取組	5 頁
法人全体で進める取組	6 頁
<見込損益計算書>	
【法人全体】平成 24 年度 見込損益計算書	7 頁
【大学】平成24年度 見込損益計算書	8 頁
【附属病院】平成 24 年度 見込損益計算書	9 頁
【附属市民総合医療センター】平成 24 年度 見込損益計算書	10 頁
参 考 平成 24 年度 法人全体収支計画（現金ベース）	11 頁

【公立大学法人横浜市立大学 平成24年度計画概要図】

《YCUミッション》 横浜市立大学は、国際都市横浜における知識基盤社会の都市社会インフラとして、特に教育・医療の拠点機能を担うことをその使命とし、社会の発展に寄与する市民の誇りとなる大学を目指す。

※地域貢献、国際化については、教育研究、医療という本学における全活動に共通した目標と位置づけ取り組んで

教育

〈全学的な取組〉

- ・ディプロマ・カリキュラム・アドミッションポリシーに沿った教育の推進
- ・アカデミックコンソーシアムなどのグローバル教育の場の構築

大学院における活
・ユニット形成の促
・領域横断的な教

学生

学部

〈共通教養教育〉

- ・国際総合科学部のコース再編に伴って見直した、専門分野に共通して必要な基礎となる力を養う共通教養教育の円滑な実施と効果の検証
- ・プラクティカル・イングリッシュ(PE)センターの教育体制整備、上級レベルの英語教育(Advanced PE)科目の授業運用・効果の検証

〈学生の学習・生活支

- ・授業料減免制度等
- ・留学プログラム(市内の学生受け入れ)、海外参加者の拡充

〈国際総合科学部〉

- ・都市の課題解決への対応等を視点にした新コースのカリキュラムの定着と学生の円滑なコース選択に向けた支援の実施
- ・国際的な成績評価指標であるグレード・ポイント・アベレージ(GPA)制度の本格運用の開始、学生への周知
- ・学部・大学院5年一貫教育プログラム(学部4年+修士1年)の開始、学生への周知

- ・教員による学生へのより効果的に行うための

〈キャリア教育・就職

- ・1, 2年生向けキャリア開始
- ・学生へのキャリアカ支援の強化

〈医学部〉

- ・定員増後の教育水準の維持・向上のために新たに設置した医学教育センターによる一貫した学部教育(病棟実習の充実、国家試験対策の強化 等)

〈健康管理〉

- ・教職員の連携体制を迅速かつ統一した対応
- ・健康診断やアンケートの不調者への早期対応
- ・長期休学者復学支援

大学院

〈都市社会文化・生命ナノシステム科学・国際マネジメント・医学研究科〉

- ・生命医科学分野再編に向けた研究科設置の準備
- ・他大学等との連携事業「横浜文化創造都市スクール」の推進

医師・看護
人材育

法人の

コンプラ
ガバ

人事制度

- ・教職員の心身不調者の早期発見等職場復帰支援体制の強化
- ・サバティカル制度の試行運用
- ・管理職・職員研修の充実

危機管理

- 大規模災害の発生を前提とした危機管理体制の整備
(マニュアル見直し・訓練実施・横浜市との連携 等)

- ・各種研修会実績の及び教員参加の促進
- ・教職員へのトップメ大学情報の共有

(2年目 ← 中期目標・中期計画期間:平成23~28年度)

育研

第2期中期計画の2年目である平成24年度は、1年目で構築した基礎・基盤をもとに、第2期中期計画達成に向けてステップアップが求められる年度です。そこで、学内における様々な課題を年度計画に的確に反映していくとともに、少子化や経済不況等、大学全体を取り巻く社会状況も見据えながら、着実に取り組んでまいります。

活動の推進

推進

育研究の推進

支援

支援>

経済支援の充実

大生派遣及び協定校

海外フィールドワーク

学習・生活支援をよ

担任制の充実

支援>

ア教育関連講座の

カウンセリング等個別

を構築し、学生への

応の推進

ト等を活用した心身

応

援体制の検討

看護師等の
育成・確保

経営

イアンス
トンス

検証と内容の充実

進
ッセージ発信と

研究

<研究成果・知的財産の地域還元>

- ・教員及び学生の地域貢献活動や地域社会との連携事業の推進
- ・市民の学習意欲に対応した生涯学習講座の開催

<研究推進体制の整備、研究の充実・外部資金獲得>

- ・先端医科学研究センター新施設竣工に合わせた企業との連携体制の整備
- ・「国際戦略総合特区」の指定に伴う、ヒト由来の細胞を用いた薬物評価試験実施に向けた基盤技術の開発
- ・研究ポリシーに沿った戦略的研究の推進と大型国家プロジェクト等の獲得の拡大

医療

<市の政策医療への対応・医療機器整備>

- ・救急病床整備(附)、生殖医療センターの開設(セ)による機能充実
- ・新たな先進医療の承認など高度で先進的な医療への取組
- ・医療機器・施設設備の計画的更新・購入による病院機能維持・向上

<医師や看護師等の人材育成・確保・労働環境整備>

- ・魅力的なプログラム・環境の整備による研修医・看護師等の確保・育成
- ・事務作業補助業務の拡大、復職支援等による医療スタッフの労働環境整備・負担軽減

<医療安全管理体制・病院の運営等>

- ・手術待ち患者解消のための手術室の効率的活用
- ・後発医薬品拡大や共同購入推進等による医薬材料費の縮減
- ・医療情報システム(電子カルテ)導入による効率化(セ)

施設整備

横浜市による八景キャンパス耐震補強整備
(新理科館建設・付属校舎改築基本設計等)

経営効率化
寄附制度

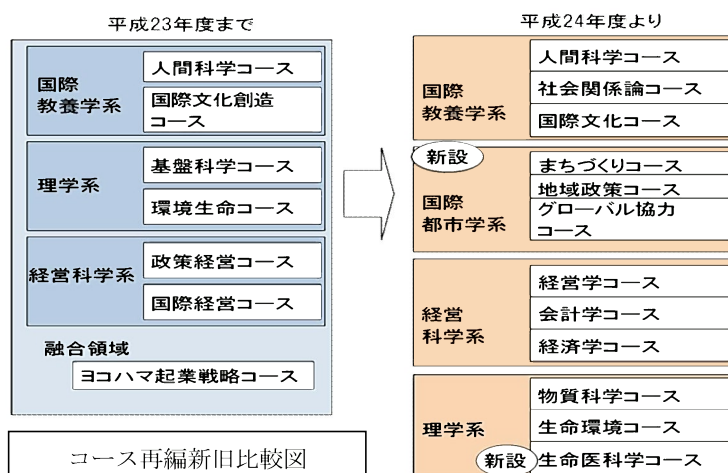
- ・適正な人件費管理に向けた人事給与システムの再構築
- ・事務用消耗品等の執行一元化
- ・卒業生・企業等からの寄附獲得に向けた体制の整備

教育・研究に関する主な取組

1 教育に関する取組

■ 国際総合科学部のコース再編に向けた取組

平成 24 年度より、横浜市が設置しているという本学の特徴を活かし、都市生活を豊かにするための「まちづくり」や「地域政策」などを特徴とする「国際都市学系」を新設します。また、理学系には「生命医科学コース」を新設し、大学国内最高レベルの研究設備を有する鶴見キャンパスと、医学部が連携することで、基礎研究を創薬や臨床研究へつなげられるような人材を育成します。



■ 国際化の推進、英語教育の充実

プラクティカル・イングリッシュをはじめとした英語教育の充実や国際協力機構 JICA 等との連携による国際的な視野を広げる授業の実施等、カリキュラムの充実を引き続き行っていくとともに、学生および教員・研究者交流を目的とした海外大学との協定締結、学生が参加しやすい短期海外派遣プログラムの開発、アカデミック・コンソーシアム（※）における人材交流の推進等、国際化に向けた内容・体制両面の充実に取り組みます。



第2回アカデミックコンソーシアム・総会
(マレーシア科学大学にて)

※ 主にアジア地域における都市と都市にある大学、および世界銀行や JICA をはじめとした国際機関と連携し、都市が抱える課題を協働して解決することを目的として平成 21 年度に創設

■ 医療人材育成の充実

医学科では、新たに医学教育センターを設置することで 1～6 年次までの一貫した教育体制を整備し、入学定員増後の教育水準の維持・向上を図ります。さらに、平成 24 年度よりセンター病院においても病棟実習を本格的に受入れ、医学科・附属病院・センター病院連携のもと医師養成を進めます。

また、看護学科では、看護師不足の解消を目指し、平成 24 年度より入学定員を 10 名増やすとともに (90 名⇒100 名)、附属 2 病院とも連携しつつ、市内医療機関の就業、卒業生の離職防止に向けた取組を進めます。



看護学科実習

医学科では医師不足の解消を目指し、入学定員を平成 20 年度から平成 21 年度にかけて 60 名から 90 名へと増やしました。平成 24 年度は平成 20 年度に入学した学生が 5 年生となり、入学定員増後はじめての病棟実習が開始されます。

2 学生支援に関する取組

■ 就職支援・キャリア支援の充実

学生の就職活動のフォローや、就職先とのミスマッチを防ぐため、経験豊富なキャリアカウンセラーによる学生への個別指導・相談体制を充実し、就職支援を強化します。

また、仕事や職業に就くことの意義をできるだけ早期に認識させることを目的として、1, 2年次生向けにキャリア教育関連講座を開始するなど、就職活動時期だけではなく大学4年間を通じた学生のキャリア形成支援に取り組みます。



合同企業セミナー
(平成 24 年 1 月)

■ 学生の心身ケアと経済支援の充実

学生が心身ともに健康で快適な学校生活を送ることができるよう、心身の不調者への早期対応を行うとともに、医療等との連携が必要となる困難事例に適確に対応していくため、心身ケアの拠点となる保健管理センターの体制を強化します。

また、昨今の経済情勢を踏まえ家計急変等にも速やかに対応できるよう授業料減免制度(※)をさらに充実していきます。

※ 学ぶ意欲と能力がある学生に対して、経済的困窮を理由に修学の機会が損なわれることがないよう、一定の基準のもと納入すべき授業料の全額または半額を免除し、教育の機会均等を図る制度

3 研究の推進に関する取組

■ 先端医科学研究センター施設建設・体制整備

国の大型プロジェクト「イノベーションシステム整備事業(旧称: 科学技術振興調整費)」や横浜市からの運営交付金を主な財源として、がんや生活習慣病、免疫アレルギー疾患等の原因究明や最先端の治療法等の開発を積極的に推し進めます。平成 24 年 12 月に完成(平成 23 年 7 月着工)する先端医科学研究センター新施設は、民間企業との新しい共同研究拠点となり、創薬や治療法の開発が飛躍的に早まることが期待されます。(平成 24 年度建設費: 724 百万円 ※2 カ年目)



新研究棟完成予想図

■ 地域貢献活動の推進

地域貢献は、本学の基本方針のひとつとして位置付けられています。市民の生涯学習を支援する「エクステンション講座」の充実のほか、教員による地域社会におけるシンクタンク機能の更なる強化や従来からの取組の学外への積極的な情報発信、さらには学生の地域貢献活動への支援等に取り組みます。



看護学科生による区内小学校での「いのちの授業」

医療に関する主な取組

(附属病院の取組は【附】、センター病院の取組は【セ】)

■ 救急病床の運用開始【附】

横浜市の医療政策上重要な課題である救急医療体制の充実に貢献するため、附属病院では平成 23 年度から救急病床 20 床の整備を進めており、病床の整備後、平成 24 年度中に順次運用を開始します。(平成 24 年度整備費：263 百万円)

■ 血液浄化センターの拡充【附】

透析を必要とする患者数の増加に伴い、満室状態が続いていた附属病院の血液浄化センターを平成 24 年度当初より現行の 7 室から 12 室に拡充し、入院の必要な透析患者の受け入れ体制を強化します。

■ 生殖医療センターの開設【セ】

患者サービスの向上及び病院機能の拡充のため、これまで婦人科と泌尿器・腎移植科で行っていた不妊治療について、新たに「生殖医療センター」を開設し、診療の一元化を図ります。

■ 手術室の効率的運用【附】

手術待ち患者を解消するため、手術室の効率的な運用に向けた取組を継続し、手術件数を増加させることにより、手術室の稼働率の向上に努めます。

■ 医療情報システム(電子カルテ)の運用開始【セ】

患者様が安心して医療を受けられることをめざし、患者サービスの向上・医療の質の向上、チーム医療の推進、診療データの二次的活用による教育・研究の推進及び経営の効率化等を図るため、医療情報システム（電子カルテ）の運用を開始します。

※医療情報システム

オーダーリング、電子カルテ、医事会計などのシステムを中心として、各部門システム等との接続、連携する医療業務全体を支える総合的なシステムです。

■ 医療機器整備【附】【セ】

附属 2 病院の医療機器については、機器の老朽化や陳腐化が進んでいるものが増えており、計画的な更新が必要になっています。第 2 期中期計画においては、限られた財源を有効に活用していくため、患者サービス向上・収益性等の基準に基づき、法人として購入の優先順位を定め、計画的に更新を行います。



X線循環器画像診断システム
(センター病院現有機器)

法人全体で進める取組

1 業務運営の改善に関する取組

■ 職員の人材育成

事務職員の能力とモチベーションの向上のため、平成 23 年度より導入した資格支援制度、メンター制度（※）等を更に充実するとともに、制度実施における検証・改善を図ります。また、実務の知識・技能の習得を目指した研修を e ラーニングにより行うなど、人材育成に関する取組を積極的に進めます。

※ 配属部署における上司とは別に指導・相談役となる先輩職員が新入職員をサポートする制度

■ 事務改善等による経営の効率化

経費節減の徹底、業務の効率化を目指し、平成 24 年度より大学部門では「消耗品管理システム」を立ち上げ、事務用消耗品の在庫管理の徹底、発注の効率化を進めます。また、より適正な人件費の執行・管理を行うため、人事給与システムの再構築を行います。

■ 寄附制度（「YCUサポート募金」）の充実

学生教育の支援や研究の推進、医療の充実など学生生活の充実と地域社会への貢献にかかる事業へ活用していくため、卒業生や企業等からの寄附獲得を積極的に進めるための体制整備を行います。

YCUサポート募金は、平成 20 年度に創設した本学独自の寄附制度です。奨学金事業をはじめ、学習環境の向上や医療機器の充実など幅広く活用させていただいています。

2 防災（災害時）対策に関する取組

東日本大震災の経験を踏まえ、平成 23 年度より計画的に施設改修、物資の備蓄などを進めております。平成 24 年度は附属 2 病院において、災害時でも電力を確保し病院機能を維持していくため、非常用発電機のオーバーホール等を行います。

また、金沢八景キャンパスでは、地震等の災害被害から学生・教職員を守るため、校舎の耐震性を向上させると同時に、現在大学として不足している機能の整備を、計画的に進めます。平成 24 年度は、理科館建替の着工、文科系研究棟耐震補強工事の実施設計及び付属校舎の基本設計を行います。



新理科館(完成予想図)

金沢八景キャンパス再整備は、キャンパス内 4 棟の建物について、「横浜市公共建築物耐震対策事業計画」に基づき、平成 27 年度までに順次整備を行います。なお、本事業は校舎の所有者である横浜市が事業主体となり実施するものです。

【法人全体】平成24年度 見込損益計算書

＜経常収益＞

(単位:百万円)

区分	平成24年度予算	平成23年度予算	差引
運営交付金収益	10,131	9,816	315
授業料収益等	2,935	2,889	46
医業収益	43,654	42,733	921
受託研究等収益	1,463	1,413	50
補助金収益	1,154	1,310	▲ 156
その他収益	479	500	▲ 21
資産見返負債戻入	1,120	1,081	39
経常収益 合計	60,936	59,741	1,194

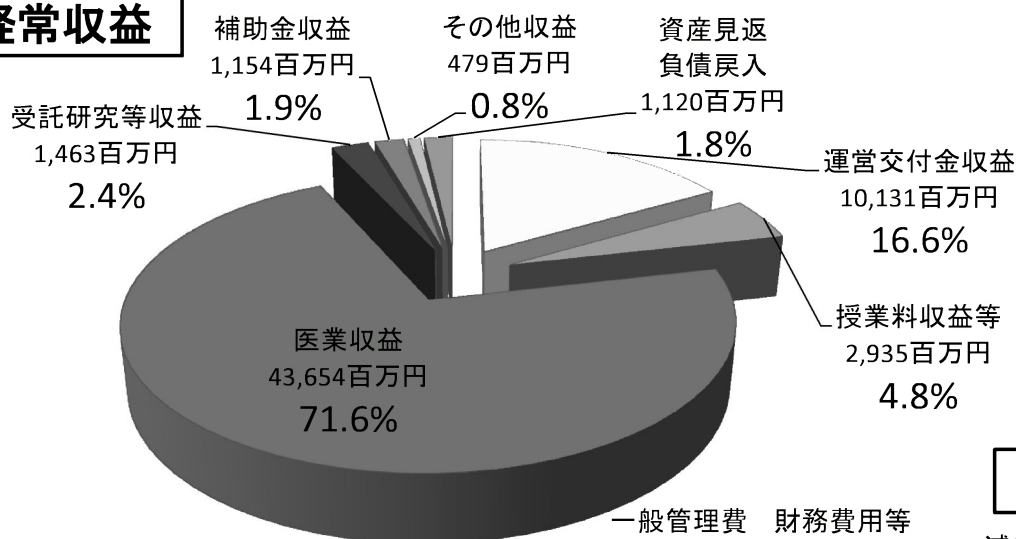
＜経常費用＞

(単位:百万円)

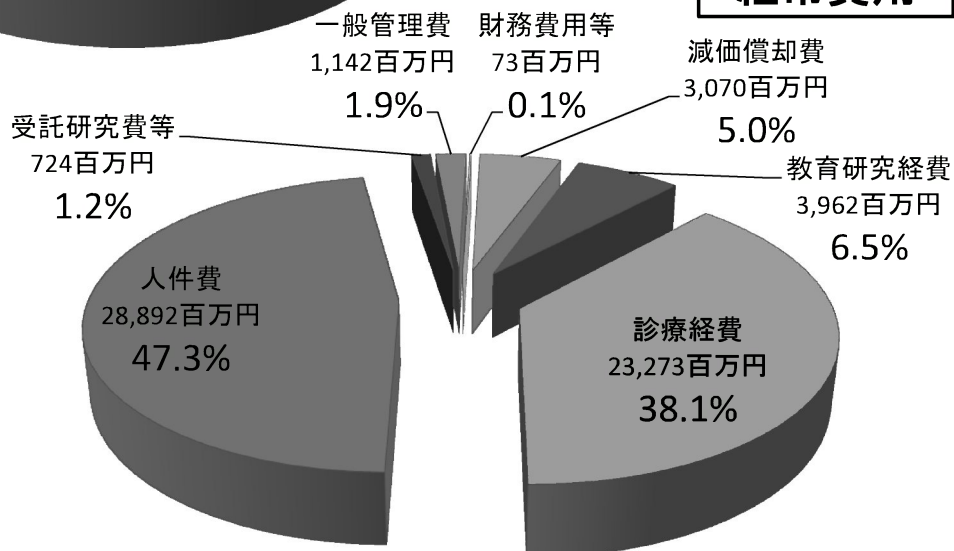
区分	平成24年度予算	平成23年度予算	差引
教育研究経費	3,962	3,995	▲ 33
診療経費	23,273	22,923	350
人件費	28,892	28,014	878
受託研究費等	724	700	24
一般管理費	1,142	1,210	▲ 68
財務費用等	73	50	23
減価償却費	3,070	2,849	221
経常費用 合計	61,136	59,741	1,395

当期純損益	▲ 200	0	▲ 200
目的積立金取崩額	200	0	200
当期総損益	0	0	0

経常収益



経常費用



【大学部門】平成24年度 見込損益計算書

<経常収益>

(単位:百万円)

区分	平成24年度予算	平成23年度予算	差引
運営交付金収益	6,636	6,591	45
授業料収益等	2,935	2,889	46
受託研究等収益	1,213	1,153	60
補助金収益	830	948	▲ 118
その他収益	155	179	▲ 24
資産見返負債戻入	569	591	▲ 22
経常収益 合計	12,338	12,351	▲ 13

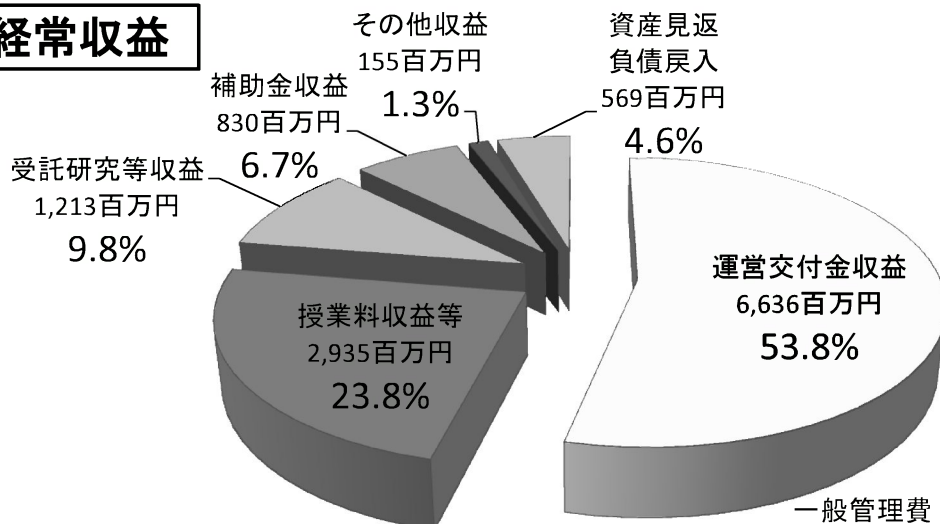
<経常費用>

(単位:百万円)

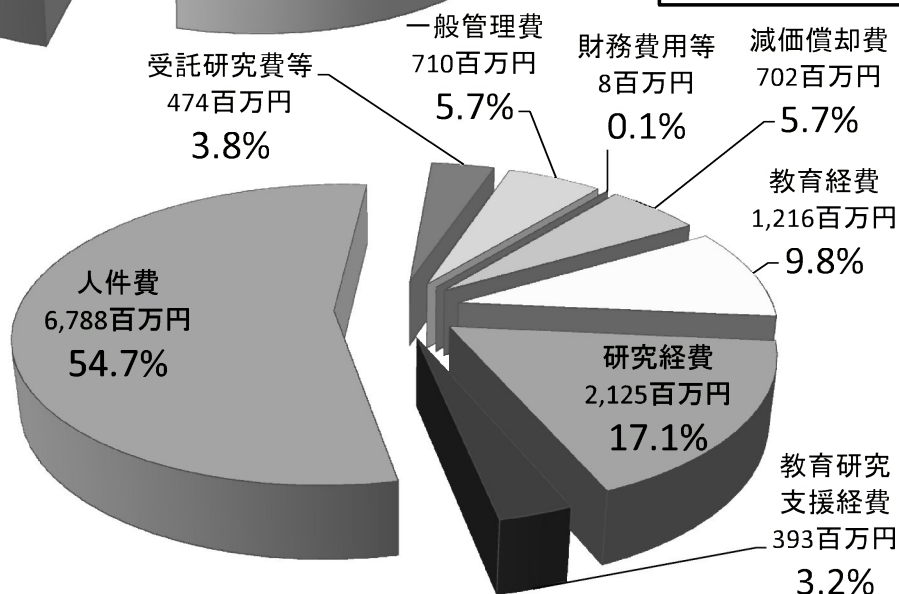
区分	平成24年度予算	平成23年度予算	差引
教育経費	1,216	1,296	▲ 80
研究経費	2,125	2,002	123
教育研究支援経費	393	414	▲ 21
人件費	6,788	6,595	193
受託研究費等	474	440	34
一般管理費	710	821	▲ 111
財務費用等	8	10	▲ 2
減価償却費	702	773	▲ 71
経常費用 合計	12,416	12,351	65

当期純損益	▲ 78	0	▲ 78
目的積立金取崩額	78	0	78
当期総損益	0	0	0

経常収益



経常費用



【附属病院】平成24年度 見込損益計算書

＜経常収益＞

(単位:百万円)

区分	平成24年度予算	平成23年度予算	差引
運営交付金収益	2,427	2,243	184
医業収益	20,346	19,792	554
受託研究等収益	110	120	▲ 10
補助金収益	195	227	▲ 32
その他収益	180	177	3
資産見返負債戻入	332	286	46
経常収益 合計	23,590	22,845	745

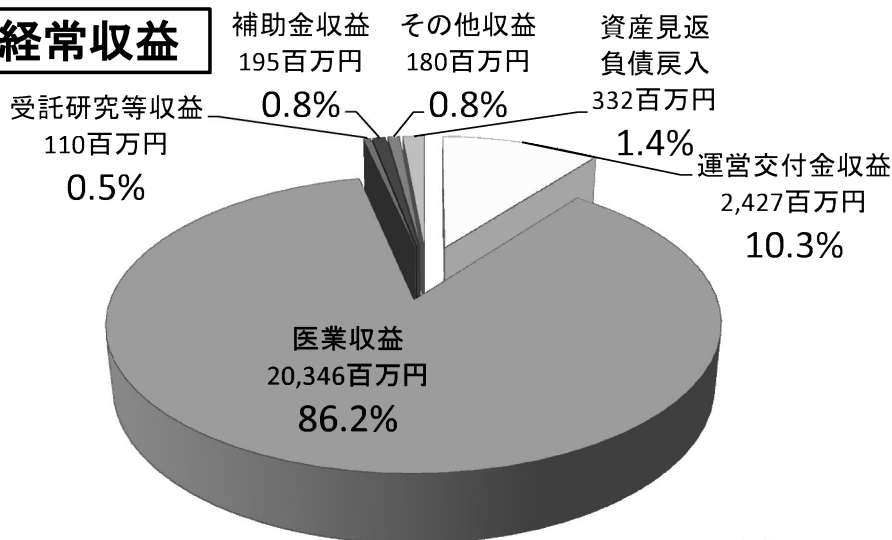
＜経常費用＞

(単位:百万円)

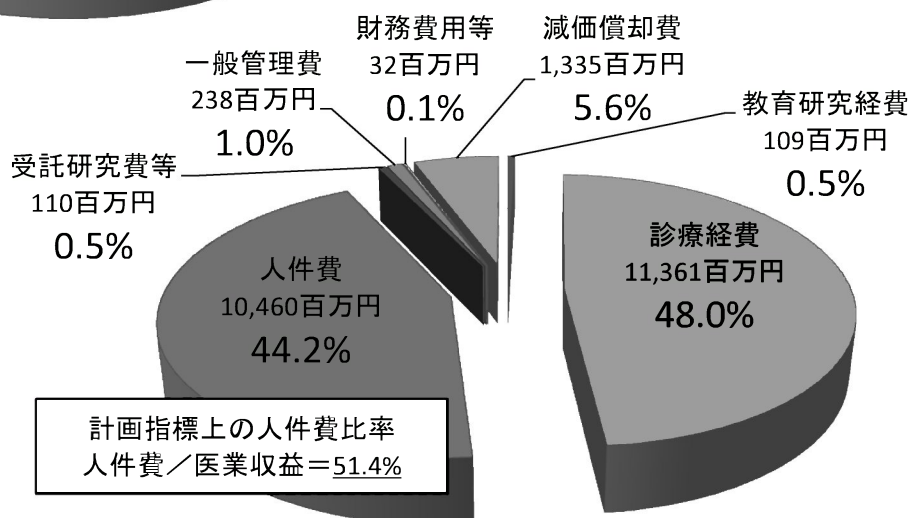
区分	平成24年度予算	平成23年度予算	差引
教育研究経費	109	97	12
診療経費	11,361	11,060	301
人件費	10,460	10,064	396
受託研究費等	110	120	▲ 10
一般管理費	238	191	47
財務費用等	32	31	1
減価償却費	1,335	1,282	53
経常費用 合計	23,645	22,845	800

当期純損益	▲ 55	0	▲ 55
目的積立金取崩額	55	0	55
当期総損益	0	0	0

経常収益



経常費用



計画指標上の人件費比率
人件費 / 医業収益 = 51.4%

【センター病院】平成24年度 見込損益計算書

＜経常収益＞

(単位:百万円)

区分	平成24年度予算	平成23年度予算	差引
運営交付金収益	1,068	982	86
医業収益	23,308	22,941	367
受託研究等収益	140	140	0
補助金収益	129	135	▲ 6
その他収益	144	144	0
資産見返負債戻入	219	204	15
経常収益 合計	25,008	24,546	462

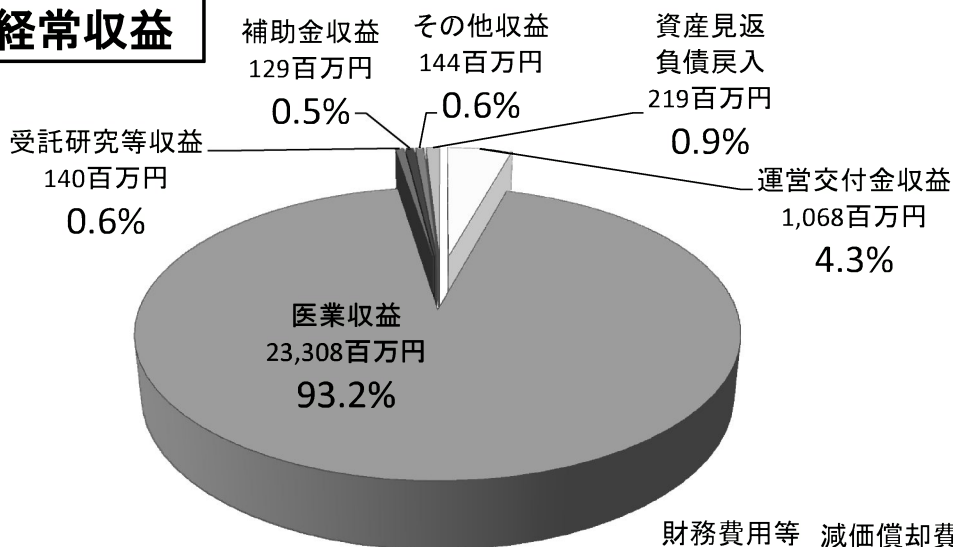
＜経常費用＞

(単位:百万円)

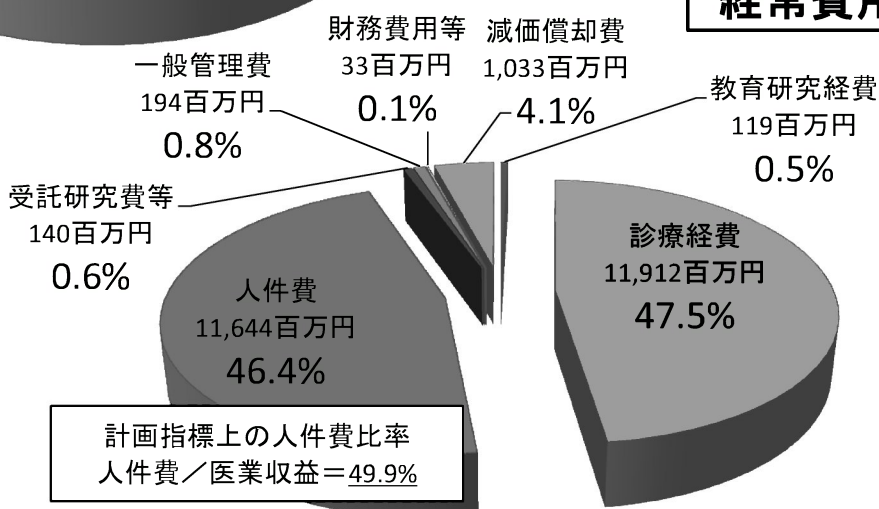
区分	平成24年度予算	平成23年度予算	差引
教育研究経費	119	187	▲ 68
診療経費	11,912	11,863	49
人件費	11,644	11,355	289
受託研究費等	140	140	0
一般管理費	194	198	▲ 4
財務費用等	33	9	24
減価償却費	1,033	794	239
経常費用 合計	25,075	24,546	529

当期純損益	▲ 67	0	▲ 67
目的積立金取崩額	67	0	67
当期総損益	0	0	0

経常収益



経常費用



計画指標上の人件費比率
人件費/医業収益=49.9%

参 考

平成24年度 法人全体収支計画（現金ベース）

<収益的収支>

（単位：百万円）

	平成24年度予算
運営交付金	9,465
自己収入	48,209
授業料及び入学金検定料	2,846
附属病院収入	43,653
補助金収入	1,209
その他収入	501
受託研究収入等	1,519
貸付金収入(奨学金返還金)	37
目的積立金取崩額	200
収益的収入 合計	59,430

	平成24年度予算
業務費	57,587
教育研究経費	4,061
診療経費	23,610
一般管理費	1,258
人件費	28,658
貸付金(奨学金)	39
受託研究費等	781
収益的支出 合計	58,407

<資本的収支>

（単位：百万円）

	平成24年度予算
運営交付金	2,006
長期借入金収入	1,000
目的積立金取崩額	1,162
資本的収入 合計	4,168

	平成24年度予算
施設整備費	3,605
長期借入金償還金	1,022
資本的支出 合計	4,627

<参考>

（単位：百万円）

	平成24年度予算
全体(収入－支出)	564